

## 歴史と自然に抱かれた情緒あふれる足羽

— 未来に繋ぐまちづくり —

足羽公民館

### 1 足羽地区の概要

足羽地区は福井市街地の南方に位置し、交通の便の良い住宅地である。北には足羽川が流れ、南には足羽山を背景にした自然豊かな環境が広がり、福井市民の憩いの場となっている。四季のうつろいを感じさせてくれる足羽川の桜並木や足羽山の紫陽花は、特に有名である。



歴史的にも福井の文化発祥の地として知られており、北国街道のなごりが今も残っている。足

羽山には飛鳥時代・大和時代の古墳群や継体天皇の石像があり、その麓には由緒ある神社仏閣が大変多い。

福井藩主「松平家」、幕末福井の偉人「橋本左内」、戦国の武将「柴田勝家」の墓所や「由利公正」の宅跡もこの地区にある。文化面では、幕末の歌人「橋曙覧」、彫刻家でハープ奏者の「雨田光平」、福井織物の先覚者「細井順子」の記念碑があり、歴史・文化の宝庫とも言える地区である。

平成28年11月1日現在、世帯数は2,626戸、人口は6,199人である。近年は、人口減少と核家族化が進んでおり、高齢化率は34%とかなり高くなってきている。

### 2 地域住民のまつりへの参画

～絆を深めるために～

地域の活性化をねらいとして、毎年4月には「あすわ左内まつり」、9月には「あすわ萩まつり」、10月には「橋本左内先生墓前祭」を開催している。

これらのまつりの企画・運営等をおおして、人と人との関わりを広げ、地域住民の絆を深めるために“手づくりのまつり”を工夫している。

#### (1) あすわ左内まつり

福井の春を彩る「ふくい春まつり」の時期に合わせて、足羽まちづくり推進委員会や福井あすわ歴史道場、橋本左内の菩提寺である妙経寺と連携して、平成22年度から実施してきた。「左内先生のいっぷく処おもてなし茶屋」や「左内まつりコンサート」などの行事には、地区内外から多くの人が参加している。

#### (2) あすわ萩まつり

「萩の寺」で知られる瑞源寺は、福井藩5代藩主「松平昌親」の菩提寺で、福井城の御殿の一部が移築されていることでも有名である。

萩の花の見頃に合わせて、「足羽萩まつり」は毎年9月に開催される。平成28年度には、公民館や各種団体が、「お茶会」や「アロマスプレー」「俳句教室」などの体験活動を実施した。子どもたちにとっては公民館の講座で学んでいる茶道の作法を、この萩まつりで発揮する場となっている。多くの地域住民が集う楽しいまつりである。

#### (3) 橋本左内先生墓前祭

時代に翻弄され、志半ばで亡くなった橋本左内の遺徳を偲ぶ「墓前祭」は、命日である10月7日に左内公園でしめやかに行われる。

まず前日には、足羽地区の住民が主体となって「左内先生を偲ぶ会」を開催する。

当日は法要に続き、式典で橋本左内の「遺芳朗吟」が披露される。



また、小学6年生が「左内先生を讃える歌」を声高らかに斉唱する。橋本左内が15歳の時に啓発録を書

いたことから、墓前祭には学校や地域ぐるみで参加し、地区の誇りである彼の功績と教訓を若い世代に伝える取組を行っている。

### 3 協働で取り組む子育て事業

「子どもは地域の宝」をモットーにして、各種団体が親密に関わり合いながら子育て支援事業を展開している。

#### (1) 「あすわ子育てひろば」での交流

0歳から乳幼児までの子どもとその保護者を対象に、毎月2回、交流の場を設けている。季節の行事を企画したり、子育ての不安をサポートしたりするために、地域住民や福井市保健センターともタイアップしている。みんなで一緒に子育てを楽しむ企画を工夫し、魅力あふれる実践を行っている。

#### (2) 「地域ふれあいクラブ」での支援

毎月2回程度、隔週の水曜日に小学校で開催される講座であり、クラブ名は子どもたちみんなで考え、命名した。地域住民が“先生”となり、得意な内容を子どもたちに教えるクラブである。

平成28年度の第1回目は「絵手紙に挑戦」、続く第2回目には「消しゴムはんこ作り」を行った。一人一人の落款印ができ上がり、工夫を凝らした素敵な絵手紙が完成した。参加した子どももサポートした大人も満足げで、ほっこりとしたひとときを過ごすことができた。

ひとり暮らしの高齢者が“先生”になり、その経験が自信になって、次の行動に移すこともある。また、手伝ってくださった方々と親しくなることもあり、高齢者の豊かな生きがいがいくつくりの場でもある。

#### (3) 子どもの発想を生かした活動



イルミネーション点灯式が近づいた11月上旬頃、家にあるものや近くの公園の落ち葉、木の実などを持ち寄って製作活動が始まった。「放課後子ども教室」と「少年学級」に参加している子どもたちやその母親の提案である。出来上がった作品は、公民館事務所前のエントランスに飾られた。今まで殺風景だった空間が華やかになり、公民館を訪れる人たちの憩いの場所として

イルミネーション点灯式が近づいた11月上旬頃、家にあるものや近くの公園の落ち葉、木の実などを持ち寄って製作活動が始まった。「放課後子ども教室」と「少年学級」に参加している子どもたちやその母親の提案である。出来上がった作品は、公民館事務所前のエントランスに飾られた。今まで殺風景だった空間が華やかになり、公民館を訪れる人たちの憩いの場所として

利用されている。

この他にも、小学校のマラソン大会に備えて練習会をしようという声が上がリ、体育連盟が中心となって、自治連合会、交通安全協会などの関係諸団体が協力し実現した。このような活動が、老若男女を問わない地域住民のつながりを強くしている。

#### (4) 特色ある「見守り隊」の活動

小中学校のPTAはもちろんのこと、育成会や交通安全協会とも連携を密にして実施している。見守りの時刻は、登校時や下校時だけでなく、不定時に行っていることが足羽地区の特徴である。そのおかげで、不審者の出没はほとんどない。この地道な活動が住民同士のつながりを深め、安全・安心で支え合う地域づくりに広がりを見せている。



また、住民は子どもを叱ることを厭わず、褒める声かけも多くして、地域ぐるみの子育てを行っている。地区内には、いつも明るい挨拶の声が響いている。

また、住民は子どもを叱ることを厭わず、褒める声かけも多くして、地域ぐるみの子育てを行っている。地区内には、いつも明るい挨拶の声が響いている。

### 4 終わりに

地域活動は、文化や風土が大きな役割を果たしてくれる。本地区は緑豊かな自然に恵まれ、多くの文化人を輩出している。また、福井城下の寺の3割にあたる36カ寺が集中している。

「このような自然と文化・歴史を活用して、自分たちは何ができるのか。」これが、われわれの課題である。愛宕坂周辺などの散策エリアを充実させたり、住民にも観光客にも分かりやすい標識を新設したりすることも考えていきたい。

さらに、地域の歴史資源を生かしたイベントや学習会、散策などの活動を充実させていきたい。また、文化と歴史を楽しむ場として「幕末の歴史が感じられる公園の整備」を、足羽まちづくり推進委員会にも提言していきたい。

足羽地区の素晴らしさを地域住民や次世代を担う子どもたちに伝承することにより、新たな価値が見出され、さらに魅力的な地区に発展することを願っています。